

第2回 尼崎市都市計画審議会公園緑地分科会専門部会 要旨

○配布資料

- 資料1 現行計画の構成
- 資料2 (仮称) 尼崎市みどりの基本計画 骨子 (案)
- 資料3 施策体系 (案)
- 参考資料 (仮称) 尼崎市みどりの基本計画市民意向調査結果速報値

(質疑等の要旨)

- 委員 資料1 現行計画の構成で、現行計画の2章4緑のネットワークの考え方や、4章地域らしいまちづくりが、どのように次期計画の個別施策の取組に取り込まれるのか。施策数やページ数が多い印象なので、まとめ方が重要になる。現行計画と照らしながら可能であれば分けたら良い。
- 事務局 現行計画2章4緑のネットワークは、資料3の施策体系で示した街路樹やグリーンインフラと関連する。現行計画の2章5魅力的な公園づくりは、次期計画の施策1—1魅力的な公園づくりと関連する。4章の地域らしいみどりのまちづくりは、改定中の都市計画マスタープランを反映させながら、個別施策の取組に集約したい。必要な項目を網羅した結果16のテーマの必要分量を想定した結果、40ページになったが、ページ数は今後具体化しながら考えたい。
- 委員 緑化重点地区や都市緑地法で規定される市民緑地認定制度等を指定するときに必要な地区指定を緑の基本計画の中で行うことで、国からの助成等と関連づけられる。個別施策より上位にネットワーク図や地区指定を示す必要がある
- 事務局 緑のネットワークの考え方は今回の計画にも示す必要があると認識している。計画冒頭で示した結果、解釈で内容が膨らむのは避けたいので、配置や分量は工夫したい。法定計画として抜けがないか、今整理しているので今後示したい。
- 委員 資料2 骨子案の書き方だが、気候変動や社会の格差等、社会問題を解決するために緑は重要なツールであり、衣食住の基盤をつくるのが緑であることを訴えるような書きぶりにする方が良い。3基本方針も課題に対して具体的に何が解決できるので大事だという書き方にする方が良い。部局間連携についてふれた方が良い。
- 委員 2緑の将来像と基本理念と、3基本方針の表現を分けると良い。2には継承する等の行動が書かれているが、緑は衣食住の基盤なのでなくてはならない等、必要性を書く。3基本方針は、例えば基本方針3はみどりで未来つなぎとあるが、みどりを未来につなぐ内容になっているので、人の生活にはみどりがなければ未来につながらないという書きぶりにする。
- 委員 3基本方針は、緑が増えた、緑が守れたというみどりづくりを目的に書くのではなく、そこからまちが良くなり生活が豊かになるというみどりからまちづくりのシナリオを示す。みどりづくりが目的ではなくて、みんなでみどりからまちづくりというニュアンスを出す。今後5年、10年はみどりのまちづくりは面白い時期なので、今後のシナリオが見えるようにすることが必要。

事務局 変動的な社会情勢の中であり、今動いているプロジェクト以外は、内容をとどめて書き示し、5年後の中間見直しで検討できるようにした。

委員 策定後5年目以降は個別施策を書かず基本方針に含める。資料3施策体系も10年でやることを並べるのではなく、どう進めるかで構成する整理の仕方も出来る。

委員 実働である職員が取り組みやすいよう計画ができていることが望ましい。

委員 数値目標等の具体の指標を設定し、見直しの仕方を示さないと計画が宙に浮く。

事務局 さまざまな角度から測れるよう指標を、到達時期も想定しながら複数検討したい。

委員 3つの基本方針毎に個別施策が複数含んだプロジェクトを前半5年の目標として設定し、後半5年はそれ以外の施策を含むモデル事業をつくることを目指す。

委員 ウェルビーイングはみどりの本質的な話になる。取り組みテーマの項でふれ、各課と調整し確実に進められるようにすると良い。大気汚染公害のあった尼崎だからこそ、現在もそのイメージが残っているなら健康について触れた方が良い。

委員 基本方針3みどりで未来つなぎの項に健康やウェルビーイングを入れたらよい。

委員 福祉の場としての公園の活用や子育て教育も重要だ。施策体系の具体例、キーワードの項より前の大きな項でふれても良いと思う。

委員 基本方針はみどりが手段とされているが、施策以下は、みどりが目的になっている。取組テーマで公園の利活用とするのではなく、基本方針の項で緑の必要性にふれた上で、まちの魅力をもたらすみどりは何かを施策や取組のテーマの項で書くべき。生活やライフスタイルに係る話は基本方針1みどりで街つなぎに入れ、基盤として捉える話を基本方針3みどりで未来つなぎに入れたら良い。

委員 先の予測ができない激動の時代に柔軟に対応するクリエイティブな戦略をとることを示せば、時代の変化に対応できる計画になる。

委員 つながりのある生態系を育むため、まちの緑を一体的に考える必要性を書かなくて良いのか。

事務局 みどりの機能を尼崎市の南北の断面図で示し、生態系がみどりのネットワークでつながっていること等、尼崎のみどりの機能を図示したい。1ページを用いて写真も配置し、場所と活動とがリンクできるようにしたい。

委員 図中にジョギングの活動や、海に魚が泳いでいることなども入れる。

委員 図中に尼崎市民に人気のスポーツである野球も入れたらよい。

委員 図中にスポーツ施設を入れ、みどりである事を示し市民に認識して頂く。

委員 公園と健康の関わりを示すとき、レクリエーション的な内容だけではなく、高齢者が公園に出て過ごすだけでも健康につながるという視点も必要。

事務局 公園遊具の更新で、健康遊具を入れ替え、子どもと高齢者の両者に配慮している。

委員 資料2骨子案に、土地利用の適正化を入れなくて良いのか。児童公園を多様な街区公園へ更新する必要は、今後出てくる。予算を一定使った公園配置の軌道修正が、結果的には全体予算の削減にもつながる。

委員 農地も同様に、従来の農業が続けられなくなった時、農地を市民が柔軟に使えるよう適正化することで、農地が保全され利用者の健康につながる。

委員 他部局の業務の農地の活用、援護射撃できるように本計画でも触れた方が良い。

- 委員 他部局との連携により、例えば保健士と相談し、良い健康遊具があり使われる公園がつくられるなど、協働が良い形に発展するシナリオを示せたら良い。
- 委員 他部局等との連携により支援することも行政の役割。足立区では公園を活用した筋トレ等の健康づくりの部局が取り組んでおり、取組が広がったという事例がある。基本方針2みどりで人つなぎの項に庁内他部局との連携を入れると良い。
- 委員 取組13の主な取組に、都市農地の保全活用をあげているが、農業支援ではなく、レクリエーション場を増やすために農地をどうするか等、まちや人の為の農地の視点で書けると良い。
- 委員 生産機能以外の農地の機能をまちに付加していくことが本計画では必要。
- 委員 資料3 取り組み③適切な公園マネジメントで民間や地域の連携が書いてあるが、様々な人や団体が様々な手法で緑の維持管理が行われることを示す方が良い。前半の5年は協力の仕方を模索し、後半の5年でチャレンジすることを示す。
- 事務局 取組11 市民や企業との連携にある情報交換ができる場をつくとあるが、最初の5年で取組み、後半5年でプロジェクトにすることを想定している。
- 委員 公園の市民協働の次の段階は、公園がエリアマネジメントの核となること。
- 事務局 大庄地区の南の口公園は、公園利用のローカルルールを考えることもワークショップで考えている。地域振興課と連携し、併設する地域振興センター等と一体としてまちづくりの核となる場所として活用してもらうことを目指している。
- 委員 市民の利活用を図る際、公園のもつ公益性や理念を浸透していくことも重要。
- 委員 市民のつくった公園のローカルルールを、地域への認知浸透を図るため市の位置づけは必要だ。
- 委員 森林環境税及び森林環境譲与税やふるさと納税等が財源となっているなら、施策3-2 持続可能な実施体制の確保にみどりに関する財源も書いたら良い。
- 委員 計画に書くことで、確実に確保できるようにしておく。
- 委員 取組③適切な公園マネジメントでデジタル技術を用いた公園マネジメントは想定していないのか。
- 事務局 取組①公園利活用の促進の具体例に、デジタル技術による利便性向上をあげている。市民にみどりをより身近に伝えるツールになるので積極的に計画にいれたい。
- 委員 維持管理や健康データをビッグデータとして収集、活用し、逆に市民にはこの公園の情報をフィードバックするDXの活用は取組①公園利活用の促進、③適切な公園マネジメント等、様々な取組に関係する。

以上